

# 博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



博物館周辺のリバーサイドパークにはカワツザクラをはじめ、7種類の桜たちが訪れる人々の目を楽しませてくれます。ジュウガツザクラ、カワツザクラ、チョウジザクラ、シダレザクラ、ソメイヨシノ、八重桜、山桜……。古来より和歌にも詠まれてきたように、周囲を彩る花々の中でも特に桜は日本人の心を揺さぶるものがあります。毎年、桜の季節、博物館エントランスでは、「桜情報パネル展」で、訪れるお客様に周辺さくら情報もご提供しています。リバーサイドパークの園内案内板も新調されています。桜だけでなく自然界に暮らす野鳥観察も楽しめる自然豊かな公園内、ご来館の足と合わせて、春のひとときをおすごしください。

# 信玄生誕500年記念版『500年前の甲斐国 大冒険すごろく』

—信玄生誕と金山の歴史500年、こんな感じで楽しむのも一興かと—

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 出月洋文

突然ですが、“すごろく”で遊びましょう。サイコロの目の数だけ進む歴史的なゲームの1つです。さいの目に託しつつ、ちょうど500年前の甲斐国の重大な歴史の動きをみてみましょう。次ページの盤面によって、先ずは振り出しからサイコロふってスタートです。

6番目のこまは「土方城」。この年に、駿河今川氏の命を受け甲斐に侵攻した福島正成の居城とされています。この城は後に武田の命運をかけた高天神城の攻防の舞台でもあります。福島は久島などと書くものもあり「くしま」とされています。謎深い人物です。

10番のこまは「大島の合戦」。ここは身延線甲斐大島駅から約20分の地で、次ページの記事でも紹介する見学会で訪ねたところです。古戦場の跡は身延町の史跡となっていますが、ここで1521年2月末に、侵攻した駿河くしまの勢力と甲斐国主とはいえまだ若く様々な不安要素を抱えた武田信虎の軍との対決があり、信虎の迎撃失敗に終わりました。この後、信虎は居城の躑躅ヶ崎近くまで追られます。ここは不名誉につき“1回休み”となります。

14番は「富田城」。くしま率いる駿河勢の甲斐侵攻の拠点で、大島合戦の後ここが兵站となりました。

17番、この年の夏に、永正から大永に元号が改められていて、注意が必要です。

20番は「飯田河原の合戦」です。山梨県立中央病院の西側などに古戦場跡の碑が建てられています。ここは武田の居城から目と鼻の先といえるほどの場所、信虎勢としては絶対に負けられないところ、何とか打ち負かすことが出来ました。すごろく的には、14番まで戻る駿河勢の動きをなぞることとします。

22番は「上条河原の合戦」。20番の合戦の後、

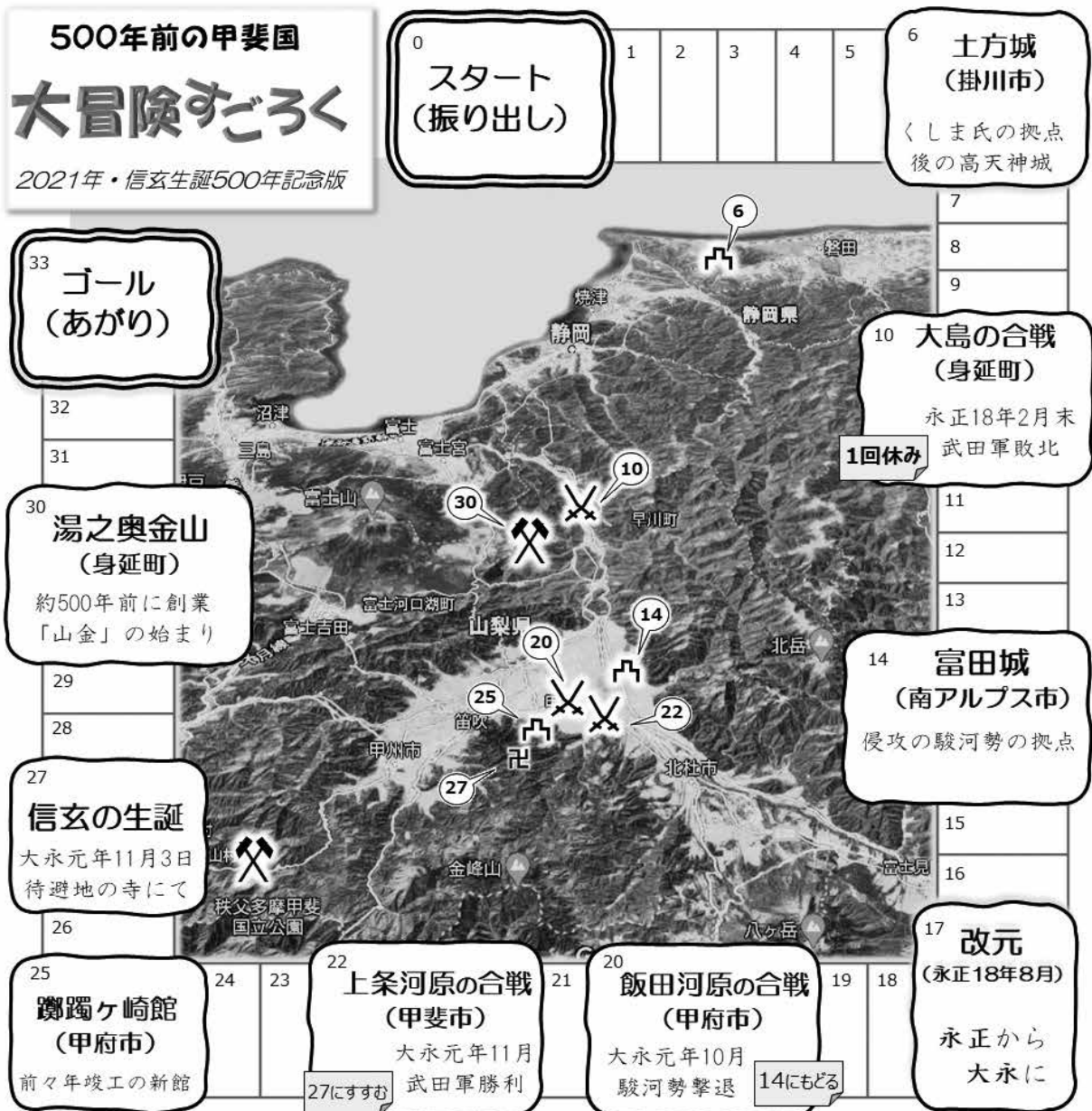
富田城まで引いて体勢を整え直した駿河勢は再び躑躅ヶ崎を目指し押し寄せたのですが、信虎は甲斐市島上条の上条河原で迎え撃ち、敵勢に大打撃を与え起死回生の結果を得たとされています。この戦いの最中に、信虎の嫡子・後の信玄が誕生しています。なお、大勝の特典として27のこまに進めます。

25番は「躑躅ヶ崎館」。文化財としては史跡・武田氏館跡ですが、武田信虎・信玄・勝頼と続く三代の居館であり、また武田の領国を司る政庁でもありました。その始まりは、1519年、和暦で言うと永正16年で、今回のすごろくの舞台の2年前のこと。つまりこの時点では、できたてのホヤホヤという感じでした。

続いて27番の「信玄の生誕」についてです。生誕直前、父信虎が駿河勢の侵攻にさいなまれ、出産を間近にした母、大井夫人は館の北方にある要害山(詰めの城)の麓の寺に難を逃れ、そこで嫡子となる男子が無事誕生、時に大永元(1521)年11月3日のことでありました。こうしてみると信玄の父もさることながら、母も厳しい状況に気をもみつつの出産で、とってもたいへんだったのですね。

30番は、湯之奥金山。すでに様々なかたちでお知らせしてきている史跡ですが、30有余年の調査研究で、約500年前、わが国で初めてという山金(金鉱石を砕いて金を得ること)の現場であり、武田信虎の新都市建設や信玄の生誕などとほぼ重なる時代にスタートが求められると考えられています。

さて、以上が今から500年前の戦国期の甲斐国に起こった劇的な展開、大河ドラマの一編を鑑賞するようなものであります。今回それを“すごろく”という形をとって眺めてみました。そこには甲斐と駿河との緊張関係がメインに



表れるのですが、バックグラウンドに若き武田信虎の苦悩や、甲斐府中の建設(居館の新造とあわせ家臣の集住による城下町の形成)、後継者の誕生、さらには金山開発の開始など、いくつ

も重なる新たなステージが読み取れるものであったのです。今回の企画、いささか変わりダネですが、少しでも歴史を身近に感じていただくための助けとなりましたら幸いです。

## これからの館長講座といでさんぽのご案内

4月以降の開催予定です。詳細は博物館ホームページなどでご確認ください。

### 第16回 館長講座 シリーズ 峽南の考古学

日時:2021年4月18日(日) 13時30分~  
「峽南の中世史にみる活躍した女性たち(1)」  
※第17回は、パート2として、5月23日(日)予定。

### 第9回 アウトドア版館長講座 いでさんぽ

日時:2021年5月8日(土)  
散策地:「羽衣の白糸の滝をたずねる」  
※マイクロバス、または自転車移動の予定。詳細は決定次第周知します。

# 活動報告

## 43万人目の有料入館者をお迎えしました

1月11日(月・祝)

「成人の日」の午後、当館の開館以来、通算で43万人目のお客さまを迎えることができました。コロナ禍で集客も半減以下というくらい厳しい観光業界、お客様をお迎えする観光の側面から、同様の状況だった当館にとって久方ぶりの明るいニュースとなりました。ラッキー入館者となったのは長野からお越しの森田さんご夫妻。近隣の下部ホテルに宿泊され下部温泉を堪能後、砂金採り体験にお越しくださった中で

の幸運と相成りました。出月館長からの花束と記念品を渡され大変驚いたようすでした。小正月の季節で館内に立てられたお山飾りの前で恒例の記念撮影をした後、目的の砂金採り体験を楽しんでくださいました。当館ミュージアムショップ壁面に、開館以来の1万人ごとの記念写真を掲出していますので、ご来館の際は是非ご覧ください。



## 2021年 館長講座&いでさんぽ

1月～3月

「峡南の考古学」をテーマにした館長講座とそのアウトドア版の「いでさんぽ」は、ともに回数を重ねるごとにファンを増やし、地元の皆様を中心に多くのご期待を集めるものとなっております。

このうち「いでさんぽ」については、1月に新年のスタートにふさわしく富士山本宮浅間大社（富士宮市）と静岡県富士山世界遺産センターの見学を予定しましたが、感染症拡大に係る静岡県側の事情を受け、残念ながら中止となりました。3月6日は大島古戦場編でありましたが、十分な対策を取り、身延線を利用し目的地最寄りの甲斐大島駅で下車。ちょうど500年前のこの時期に、この地であった合戦について楽しく学んでいただきました。いつも事前に館

長自ら、実際の交通手段ルートをめぐりスケジューリングしています。この回では、館長が下見にお出かけの情報を耳にした方が集まり、本番前のプレ散歩を楽しむこととなり、結果的にトータル30名ほどの方が古戦場の歴史にふれることができました。

この1年のコロナ禍で、観光業への打撃が極めて大きかったことは言うまでもありません。ローカル鉄道も同様に存続も危ぶまれるような状況の中、公立博物館が果たすべき社会貢献の意味合いもこめ、身延線を移動手段として利用しています。今後も時にはワゴン車利用も組み込みながら、状況に上手に付き合いながらアウトドア事業を企画展開してまいります。



## ニコニコバスツアー身延町編に博物館登場

2月23日(火・祝)

新型コロナウイルスの影響で移動制限の状況下、国内のみならず、世界中でリモート観光という新しい旅行のスタイルが注目されています“自宅にいながら旅行を楽しめる”リモートバスツアーもそのひとつ。オンラインで現地の観光や散策を遠隔で楽しめるものです。この日、ニコニコ動画による企画で、バスガイドさんと“案内人”が身延山を中心に観光名所をめぐる「ニコニコバスツアー身延町編」が生放送配信され、当館も立ち寄り観光スポットとして紹介されました。

本栖湖をスタート地点に観光しつつ博物館



まで移動し、到着した一行をスタッフが出迎えて案内するというもの。博物館滞在時間は約30分程、館内展示と砂金採り体験を小松学芸員が案内しました。放送中、視聴者の声がテロップ表示され流れていくスタイルが特徴のニコニコ動画。テロップ内容からも全体放送時間が5時間を超えるロング配信を約2万人の方が興味深くご覧いただきました。自由にお出かけできるようになった際には、多くの方に改めてお越しいただき、身延観光を満喫していただきたいところです。

## 信玄生誕500年シンポジウムで出月館長の講演がありました

2月26日(金)



令和3（2021）年は、武田信玄の生誕（1521年）から500年経過の節目で、山梨県内各地でさまざまな記念事業が開催されることになっています。

今回のイベントは史跡整備のための連絡協議会が企画したもので、“信玄生誕500年シンポジウム”を冠し「武田氏を史跡から学ぶ」のテーマで、甲府市市民会館で開催されました。

主催者側の感染症拡大防止の配慮から事前の大々的な告知をせず、500席の会場を利用制限したにも関わらず、130名ほどの申し込みと聴講参加がありました。

トップバッターの当館出月館長が、これも500年前の武田時代に開発が始まった山金の舞台である甲

斐金山遺跡について、湯之奥中山金山を中心に約40分間の報告を行いました。そのあと、北杜市、甲州市、甲府市の各自治体の担当者による興味深い報告が続きました。すべての事例報告が終わった後は、出月館長がコーディネーターでディスカッションの時間も設けられ、その中でそれぞれの自治体や施設による効果的な史跡活用の実際について、意見交換がなされました。

## 資源・素材学会「鉱業史」オンライン発表

3月10日(水)

コロナ禍で、この一年大きく様変わりしたのは日常生活だけでなく学術分野においても集会的なものや発表的なものはオンライン、リモートが日常になりつつあります。年に2回開催されている「資源・素材学会—鉱業史—」には当館の小松学芸員が参加し、湯之奥金山遺跡をはじめ鉱山臼についての研究成果など、金山史にまつわる内容で参加しています。この春季大会においても講演者として発表しました。

福井県大野市に位置する阪谷地区及び小黒

見地区の集落内には鉱山臼が多数点在し、特に“小型鉱山臼”が多数存在することが伝えられていましたが、鉱山臼の分類研究を進めるにあたって詳細は分かっておらず現地確認が必要な場所でした。そんな中、昨年3月、先方の教育委員会のご協力をいただき調査する機会を得て、その成果を「福井県大野諸金山の遺構調査について」として、阪谷山中の踏査範囲の遺構状況の記録と、金挽臼の確認状況について博物館からリモート報告がなされました。



阪谷金山・小黒見地区での現地調査（2020年3月）

## 常設展示室 音声解説リニューアルしました！

当館2階常設展示室の展示解説は、調査研究の深化によって、実はこれまでも随分と変わっていたことにお気づきでしょうか。その変化の歴史をふり返ると、開館10年目の節目で奥山コレクションの甲州金展示が加わり話題を呼びました。今なお、貴重な歴史を伝える当館の目玉展示となっています。続く大きなリニューアルは、内山・茅小屋金山の測量調査が行われた時。2金山の詳細な測量調査により明らかになった事柄として、湯之奥3金山の位置図パネルや総合解説の追加、タッチパネルクイズの刷新、外国語対応を施したジオラマ展示室映像の完全リニューアルで、来館者の皆様にわかりやすい展示追加をしてきました。そして、今も世界で唯一ともいえる「日本砂金地図」を継続的に追加展示し、これまた観覧者の注目を集めています。博物館応援団Au会の皆様のご協力のおかげ

で47都道府県コンプリートしてお目につけられる日も、そう遠くないと思えるところまでできました。見る側がわかりやすく楽しめることを常に心がけ、展示には工夫を凝らしている中、このほど、金掘、粉成、汰り分け、灰吹と4つの項目を、それぞれ約2分ほどのコンパクトなアニメとナレーションの音声解説で紹介している「金山の語り部」コーナーが新しくなりました。

従来の研究見解から理解が変わってきたこと、30年前の調査当時は正しかったけれど、今はそうではない事柄を内容、アニメーションなど諸々修正しつつ作り上げました。また、これまでの渋く落ち着いたナレーションから新たに、やさしく明るい印象を吹き込んでくださったのは、数々のMCでもご活躍されている三井順さん。分かりやすく生まれ変わった音声ガイドを、ご来館の際には是非お楽しみください。



## 第9回金山遺跡・砂金研究フォーラム開催しました

3月20日(土・祝)

当初は2月6日開催予定だった博物館応援団Au会主催の「金山遺跡・砂金研究フォーラム」が、感染症拡大の影響を受け一度延期、そして例年より規模縮小ではありましたが、この日無事に開催されました。

この発表会は博物館を拠点にフィールドワークをしている方々が日頃疑問に思ったり、興味をもったりしたことをテーマに発表しあう場で、今年で9回目を迎えます。今年はオーラルセッション、ポスターセッションともに各4件の発表がありました。

エントランスのポスターセッション掲示前で、「日本最古の鉱物利用—黒曜石—」と題した、出月館長のギャラリープレトークを皮切りに、シアターでの口頭発表がスタートしました。産金遺跡、砂金掘り、CS立体図、文化財保護法など、各自がそれぞれのテーマで発表しました。

丹波山(山梨県北東部)周辺の産金遺跡を独自調査のようすを発表した市川さん、長崎県

対馬というなかなか行くことのできない場所での砂金採りについてお話をしてくれた三木さん、CS立体図を利用した湯之奥中山金山について発表した広瀬さん、外で埋蔵文化財を見つけてしまった場合について、発表の場としても初経験の伊藤学芸員、それぞれ20分間の持ち時間を有効に使った発表に、聴講者の皆さんも終始、興味深そうに耳を傾けていました。

また、ポスターセッションは、「含水銀砂金の元素分析(鰐部さん・愛知県)」、「CS立体図を利用した柴金遺構調査(広瀬さん・岐阜県)」他3本、「多種多様なパンニング皿(天野さん・静岡県)」の合計6本。当館1階エントランス(無料エリア)で、4月中旬くらいまで継続掲示しています。また、オーラルセッションはYouTube配信もしていますので、会場にお越しになれなかった方はぜひご覧になってください。

➔ **YouTube** 「第9回金山遺跡・砂金研究フォーラム」で検索



(左から 市川さん、三木さん、広瀬さん、伊藤学芸員の発表の様子)

## 写真でみる下部温泉郷・黎明期

12月10日～1月31日

温泉郷を盛り上げようと努力してきた先人の思いを、写真を通して広く知ってもらいたいという地元の下部区・下部公民館のみなさんの思いから企画された写真展が、温泉郷の入口に位置する当館にて約1か月半開催されました。

電車も車もなかった時代、「波高島の富士川の渡しから下部温泉の鉱泉場まで道路を建設したい。」という当時の人々の思いから約100年前の1920年に、下部川をはさんで博物館対岸の道路は完成しました。この道路が開通したことで、馬車や人力車が通ることができるようになり、温泉郷へのアクセスがしやすくなった当時の賑わいのようすを貴重な写真約30点で

振り返ることができるものでした。ニュースや新聞で取り上げられたこともあり、期間中多くの方がご来館くださいました。(ということで、Next⇒写真展第2弾情報！)



## 好評につき、第2弾開催決定！

町内外たくさんの方にご覧いただき、大きな反響をいただいた写真展ですが、好評につき第2弾開催決定！

戦後～高度経済成長期、めまぐるしく移り変わっていく社会の中で、下部温泉郷も様変わりしていくようすを収めた数々の貴重な写真たち。この機会にぜひご覧ください。第1弾につづき、当館開館記念日に華を添える素敵な写真展となること間違いなし！

### ☆博物館開館24周年記念「GET！GOLD&SILVERリターンズ」延長決定！☆

4月24日は当館の開館記念日です。盛り上げてくれるのは写真展第2弾だけではありません。「金だけでなく銀も集めてみない？」が合言葉。金が採れるのは当たり前、銀が採れたら超ラッキー。昨年の9月より開催してきた大好評企画、「GET！GOLD&SILVERリターンズ」延長です。金銀同時に楽しめる格別の喜びをもう一度！（～2022年3月21日(月)まで）



## 2021年4月～9月 博物館イベントスケジュール

各自での感染症対策にも留意しつつ、令和3年度も、金山博物館で大にお楽しみください。

**7月24日(土)** 第21回砂金掘り大会

**7月25日(日)** 第18回砂金甲子園！東西中高交流砂金掘り大会

**8月1日(日)** おしえて！みやもん先生 第13回化学実験教室

**8月11日(水)** 激烈☆おやこ金山探険隊

**9月13日(月)～20日(月・祝)** みのぶ町民ウィーク

**9月11日(土)～26日(火)** 特別展「下部温泉郷～古写真から未来を考える～(仮)」

※すべてのイベントにおいて、新型コロナウイルス感染拡大防止対応策を施した上で、計画・開催しておりますが、今後の状況により変更となることもあります。その際には博物館公式HPでお知らせさせていただきます。あらかじめご了承ください。

### 編集後記

春は出会いと別れの季節。年末年始と同様にあわただしさがあります。一年経験して慣れてきたとはいえ、コロナ禍の日常は楽なわけではありません。各自がしっかり対策しながら、そしてお客様を迎える側の施設は施設で、できる限りの対策を施しながら、博物館としてできるさまざまな学習機会を、新年度も提供していきたいと考えています。

**博物館だより**

第95号 令和3年3月30日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス <https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>

博物館Eメール [yunoking@town.minobu.lg.jp](mailto:yunoking@town.minobu.lg.jp) もーん父さん 